

## 第4学年道徳学習指導案

日 時 平成21年11月20日(金) 2校時  
対 象 4年生(男18名 女13名 計31名)  
指導者 橋本 由香利

- 1 主題名 わたしのまち(郷土愛 4-(5))
- 2 資料名 よみがえった街並み(自作資料 4年)
- 3 主題設定の理由

### (1) 価値について

学習指導要領第3章、道徳の内容の第3学年及び第4学年の内容の4「主として集団や社会に関すること」の(5)に「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。」とある。この内容は、地域社会の一員であるという自覚をもち、郷土を大切に作る心や態度を育てようとするものである。低学年の4-(5)「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。」を発展させたものであり、高学年の4-(7)「郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」へ発展していくものである。

「郷土の伝統と文化を大切に作る」では、まず、自分が生きて育っている郷土の伝統と文化について知ることがベースとして必要になる。関心をもち理解を深めていくことにより、郷土を愛する心が育つものであると考える。また、郷土の伝統と文化が、先人の苦労や努力により、受け継がれてきたものであることを中学年なりに理解することが大切である。「郷土を愛する心をもつ」とは、先人の郷土を思う心を知り、郷土のよさやありがたさに触れたとき、自分の心の中に郷土を愛し、よりよくしていこうとする心が芽生え、さらに発展させていこうという心情をもつということである。郷土の自然の美しさ、伝統や文化の素晴らしさにふれる体験を多くもちたい。

この期の児童は、積極的に子供会や地域のお祭りに関わっている児童と、家の中にこもりあまり積極的に郷土の自然や人々と触れあおうとしない児童に二分される。このような子ども達に自分の地域を支える人々の工夫や苦労に触れながら、郷土を大切にすることはどういうことなのかを気づき、考えさせていきたい。

### (2) 児童について

省略

### (3) 資料について

本資料は、400年の歴史をもち、盛岡でも由緒ある商店街として戦前まで繁栄してきた材木町商店街が、新興商店街の台頭や車社会への対応の遅れから商店街としての存在感や活気を低下させてしまったが、協力して近代化を図り街作りを進めることにより、再生を可能にしたという内容である。

身近な街の人たちの工夫や努力、苦労を重ねながら、再生を図った現在の街作りについて知ること、自分たちの地域のよさを見つめ、自分がどう地域と関わっていったらよいかを考えるのに適した資料である。

### (4) 指導の態度

「気づく」段階では、よ市の映像を見せ、資料を提示していく。

「深める」段階では、よ市の買い物についていくのを面倒だと思う智子の気持ちに共感させ、地域のことには関心を示していないことを押さえない。次に、母と岩淵さんの会話から、材木町の歴史を初めて知り驚いたり何も知らなくて恥ずかしい気持ちになったり、材木町の街作りの話し合いの様子から街作りにかかる材木町の人たちの思いをしっかりと感じ取ったりしていることをとらえさせたい。「つかむ」段階では、自分から地域に積極的に関わろうとしていることを押さえない。

「広げる」段階では、材木町以外の盛岡市内の他の地域でも街並みを大切にしていることや文化と伝統を守り、発展させていこうとしている人たちがいるということを感じかせ、さらに、これから自分の地域の活動にどのような気持ちで関わっていくのかという発表をさせまとめたい。

4 全教育活動における本時の位置づけ 4年 4の(5) 郷土愛

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校 / 学年行事	始業式 入学式 1年生を迎える会 交通安全教室	児童総会 運動会	開校記念講演 参観日 誕生集会	市内陸上 記録会 終業式	始業式 学校参観日	児童総会 市内球技大会	校内マラソン 大会 参観日 感謝集会	学校公開 誕生集会 市内連合 音楽会	終業式	始業式 誕生集会 学校参観日	スキー教室 6年生参観日	卒業式 修了式
各教科	音楽「日本の音楽に親しもう」 ・岩手の民謡「南部牛追い歌」を鑑賞し、昔の人々の暮らしぶりや牛や馬と共にあった生活のことを知らせる。		図工「木々をじっくり見つめて」 ・地域や学校内の木々を見つめ、その風景を描き、緑の多い地域であることに気づかせる。		国語「調べて発表しよう」 ・学区の文化財などから、街作りの工夫などについて分かり、地域を大切にすることを育てる。		社会「昔の暮らしとまちづくり」「わたしたちの県のまちづくり」 ・盛岡市や岩手県の歴史やよさに気づき、それを支える人々の工夫や苦労を分かり地域を大切にすることを育てる。		国語「調べたことを知らせよう」 ・まちづくりや歴史についてさらに調べたことを、写真や絵を使って、分かりやすく発表する。郷土と自分との関わりについての考えをもち、ふるさとを大切にしようとする心情を育てる。			
道徳の時間	指導要領の内容4-(5) 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。		第1時(6月) 資料名 石わりさくらー藤村益治郎(学研) ねらい ふるさとの宝を守っていこうとする人を知り、地域のことを考えようとする気持ちを育てる。 反省		第2時(11月) 資料名 よみがえった街並み(自作) ねらい 地域の人たちの街づくりに対する思いや努力を知り、地域のよさを大切にしていこうとする気持ちを育てる。 反省		郷土愛					
総合学的習の時間	さんさ踊りを踊ろう ・盛岡の伝統文化のさんさ踊りを習い、楽しく踊って、文化に親しむ。(運動会で披露する)		盛岡や岩手の先人を知ろう ・盛岡や岩手の先人について、小学校時代のことや大人になってからのことを調べる。先人の功績を知り、先人を支えた人々や郷土について大切にしようとする心情を育てる。		盛岡ぐるっと橋めぐり ・橋と周辺の文化財や町並みを巡って調べ、そのよさに気づかせる。 ・盛岡の歴史や土地の様子をわかり、盛岡に愛着をもち、歴史や伝統を守り続けようという心情を育てる。					これからの盛岡 ・盛岡の各地域の街をどんな街にしていきたいか考え、これからも守り伝えていきたいこと、新しくしていきたいことを考え、自分たちにできることを考えて実践しようとする態度を育てる。		
特活・行事・日常生活	児童会活動(年間を通して) ・材木町のお祭り、子供御輿の意義をよく分かり、積極的に参加する。 ・チャリティコンサートの意義を分かり、心を込めて呼びかけたり演奏したりする。		親子見学会(岩手大学) ・岩手大学農業教育資料館を親子で見学し地域にある施設と宮澤賢治の功績を知り自分の地域に目を向けさせる。		子供会行事(年間を通して) ・地区子供会の行事の意義を考え、進んで参加しようとする態度を育てる。		感謝集会 ・自分は地域の方々や周りの方々に支えられて生活していることを自覚し、その方々に感謝の気持ちをもち、地域に関わっていこうとする心情を育てる。		児童朝会 ・「一本の樹」を歌うなかで、学区や学校の木の歴史を考えさせる。		朝読書(年間を通して) ・郷土や自然に関わる本に興味をもつように読ませる。 ・お互いにどんな本を読んだのか、感想をもったのか、交流しながら地域のことを考える心情を育てる。	
	情報教育 ・盛岡や岩手の先人について、年表や作品などを、インターネットを使って調べる。 ・夏休みの自由研究で先人を取り上げ、インターネットなどを使い調べて、その人の生き方について理解を深める。				環境教育(年間を通して) ・学校美化の日、地域の奉仕活動や資源回収に積極的に参加し、地域の環境を守っていくために役立つことを実践する。				ボランティア教育(年間を通して) ・毎月行うVS活動の意義を理解し進んで取り組む。 ・JRCの募金活動が世界の人々や自然環境のために役立っていることを理解し、積極的に活動する。			

## 5 本時の指導

(1) ねらい 地域の人たちの街作りに対する思いや努力を知り、地域のよさを大切にしていこうとする心情を育てる。

### (2) 展開の概要

	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	指導上の留意点 (◆仮説にかかわる手立て)
気づく 4分	1 よ市の映像を見せる。 ○よ市のどういうところが好きですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人がいっぱいいて、にぎやかなところ。</li> <li>・活気があるところ。</li> <li>・売る人と買う人のあいだに、会話のやり取りがあるところ。</li> </ul>	◆ねむのきノートに書かれている材木町のよさの一つ、よ市について発表する。ねむのきノートを活用する。
深め	2 資料を読み感想を発表し学習課題を確認する。 ○資料を読んでどんな感想をもちましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・智子のように僕も材木町の街作りのことを初めて知って驚いた。</li> <li>・最後に智子は何を考えたのかな。</li> </ul>	・主人公の智子の気持ちに沿った課題とする。
る	<p>智子が友だちをさそって、よ市へきてみようと言ったのは、どんなことを考えたからでしょう。</p> <p>3 智子の気持ちを中心に考え話し合う。</p> <p>①智子は、お母さんによ市の買い物についてきてと言われて、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>②材木町がさびれた街だった時代があったことを岩淵さんから聞いて、智子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>③材木町の街作りを行ってきた話をする岩淵さんの顔を見て、智子はどんなことを思ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒くさいから、行きたくない。</li> <li>・お母さんがそんなに言うなら、仕方がないな。</li> <li>・よ市なんか毎週やってるから、別に珍しくもない。</li> <li>・いつだってやってる。</li> <li>・でも、今は賑わっている。どうしてだろう。</li> <li>・400年も前からある商人の街なのにさびれていたなんて信じられない。</li> <li>・そんな時があったなんてショックだ。</li> <li>・材木町という街のことを一番に考えていたのがすごい。</li> <li>・岩淵さんのような街作りのために活動した人達がいたから、今の材木町があるんだ。</li> <li>・岩淵さんは今の材木町のことをうれしく思っているんだな。</li> <li>・街作りのためにたくさん話し合っ、大変だったろうな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆土曜日の自分の自由な時間を気ままに過ごしている時に言われたので、行くのが面倒くさいという主人公の気持ちを、同じような経験がある子を指名し、地域に関心を示していないことを押さえない。</li> <li>・ずっと今のような街だったと「いつもあるもの」と思っていたことがそうではなかったという驚きと今は賑わいを見せているという疑問の気持ちをもったことを押さえない。</li> <li>・岩淵さんのような街作りのために活動した人達がいるから、今の材木町があり、続けることを押さえない。また、話し合いが難航した苦労や努力についても触れる。</li> </ul>
つかむ 29分	④智子が友だちをさそってよ市へ来てみようと言ったのは、どんなことを考えたからでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この街のいいところをもっといっぱい見つけて、この街をもっと好きになりたい</li> <li>・街作りにかけた材木町の人たちの思いを、みんなにも教えたい。</li> <li>・この街作りの工夫をもっといっぱい見つけたい。</li> </ul>	・智子が自分から積極的に地域に関わろうとしていることを押さえない。
広げる 10分	4 自分の生活についてふり返る。 ○街を守り伝えようとしている人達を知っていますか。 ○自分たちは、どんなことができそうでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡の他の地域にもある。それぞれの地域のよさを守ろうとしている。</li> <li>・冬に行く夜回りなどに積極的に参加したい。</li> <li>・行事の歴史をわかって参加したい</li> </ul>	◆街作りにかかる努力をしている人達は、他の地域にもいることを確認する。さらに、自分はこの学区でどう地域と関わっていくのかねむのきノートに書き、発表させたい。
まとめ 2分	5 街についてのCDを聞く ○今日の学習の街のこの歌があります。		・歌詞に注意してしみじみと聞かせたい。

# よみがえつた街並み

智子が友だちをさそって よ市へ来てみようと思ったのは どんなことを考えたからでしょう。

よ市で一緒に買い物

よ市の写真

- ・めんどくさい。
- ・いつもやっているし。

四〇〇年続く商人の街

初めて知った

- ・おどろいた。
- ・何も知らなくてはずかしい。

街作りにかける街の人々

話し合いの  
写真

- ・大変そう。
- ・駐車場のことではなやんだんだな。

- ・この街のよいところをもっと見つけたい。

- ・街作りにかけた人達の思いを。

わたしの街のことを

7 資料分析

<p>資料名 <b>よみがえった街並み</b></p>	<p>(出典 自作資料 4年) ねらい 地域の人たちの街作りにかかる思いや努力を知り、地域のよさを大切にしようとする気持ちを育てる。</p>			
<p>場面</p>	<p>母によ市の買い物と一緒に行くように言われて、面倒くさがっている場面</p>	<p>母と岩淵さんとの会話から、材木町が400年も続く商人の街で歴史がある街と初めて知る場面</p>	<p>材木町の街作りのための話し合いの様子を思い浮かべている場面</p>	<p>材木町の街作りの工夫や努力が分かり、材木町を見回している場面</p>
<p>外的状況</p>	<p>・「よ市で買った物を運ぶのが大変なの。」 ・早く終わらないかなと思いつながら。</p>	<p>・「江戸時代から400年以上も続く商人の街なのですよ。」</p>	<p>・歴史と伝統のあるこの街。 ・このままではいけない。 ・意見の対立を解決するためには話し合うしかない。</p>	<p>・材木町をもう一度、見回しました。</p>
<p>主人公の心の動き</p>	<pre> graph LR     A(めずらしくない) --&gt; B(驚き)     C(面倒くさい) --&gt; B     B --&gt; D(郷土愛)     B --&gt; E(感動)     E --&gt; F(郷土愛)     E --- G(大変、悩み)     E --- H(もう無理)     </pre>			
<p>児童の反応</p>	<p>●面倒くさいから、行きたくない ●お母さんがそんなに言うなら仕方がない。 ●よ市なんか毎週やっているからめずらしくない。 ●いつだってやっている。</p>	<p>○すごく驚いた。 ○400年も前からある商人の街なんて知らなかった。 ○どの街にも歴史があるのかもしれない。 ○何にも知らなくて恥ずかしい。</p>	<p>○いろいろあったけれど、やっぱりこの街のためにという思いが、いつもあった。 ○街作りにかかる材木町の人への思いは熱くてすごいけど大変そう ○駐車場の土地を街作りのために出すことは、本当に悩んだろう</p>	<p>○この街のいいところをもっといっぱい見つけて好きになりたい。 ○街作りにかけた材木町の人たちの思いをみんなにも教えたい。 ○この街作りの工夫をもっといっぱい見つけたい。</p>
<p>発問</p>	<p>智子はお母さんに、よ市の買い物についてきてと言われてどんな気持ちだったでしょう。</p>	<p>岩淵さんの話から、材木町の歴史を初めて知った智子はどんな気持ちでしょう。</p>	<p>材木町の人たちは、どんな思いで、材木町の街作りを行ってきたのでしょうか。</p>	<p>智子が友達を誘って、よ市へ来てみようと思ったのは、どんなことを考えたからでしょう。</p>

岩手県の 資料（5年・郷土愛）

# よみがえった 街並み



「智子<sup>ともこ</sup>、いつしよによ市へ行きましょう。」

「えー、やだよ。めんどくさいよ。」

「お母さん一人じゃ、よ市でお買い物した物を運ぶのが大変なのよ。いつしよに来てちょうだい。」

「仕方がないなあ。」

智子は、しぶしぶお母さんについて行くことにしました。

ここは盛岡市材木町のよ市です。毎週、たくさ

んのお客さんで、とてもにぎわっています。

「こんにちは。」

「あら、岩淵<sup>いわぶち</sup>さん。お買い物ですか。」

お母さんが、あいさつをしてきたおじさんと話し始

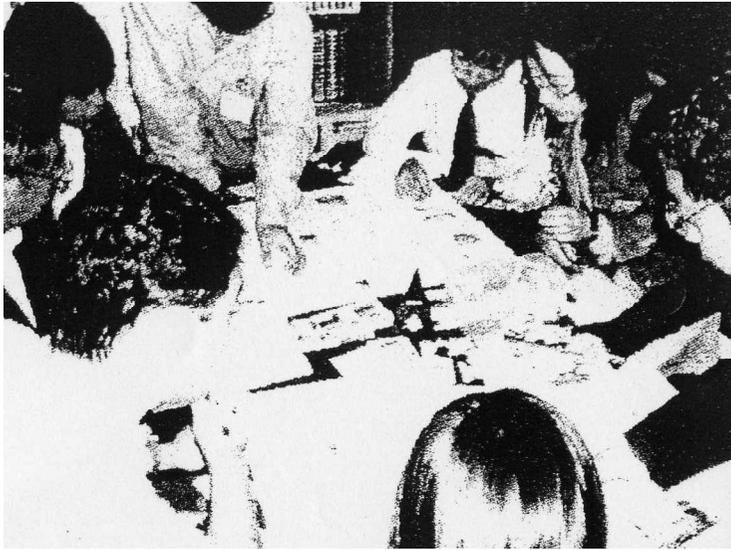
めました。この方は、材木町でカメラ屋をしている岩淵さんです。二人の話は続いていきます。智子は、早く終わらないかなと思いつながら、話を聞くともなく聞いていました。

「この活気を見ているとうれしくなってくるんですよ。この活気がよみがえるまでには、大変な苦労があったのですよ。」  
岩淵さんの話は続きます。

「昭和三十年代、この材木町は、平日はもちろん、土日になっても人通りが少なく、さびしい町になってしまったのです。江戸時代から四百年以上も続く、材木を商っていた商人の街なのです。歩道もなくて、せまい道路のままだったので、お客さんにとっては不便だったことでしょう。次第に、あぶなくて暗いというイメージの街になってしまったのです。」

智子は、この材木町が四百年も前から続く伝統でんとうのある街だと初めて知り、（江戸時代から続いている街だったんだ。さびしい街になったと言っているけれど、今はこんなにお客さん集まっている。なぜかな。）少し疑問が生まれてきました。

「このままでは商店街として成り立たなくなってしまう。自分たちの先祖せんぞがつくり、守り続けてきた歴史と伝統のあるこの街で、商売ができなくなってしまう。このままではいけない。街の人たちは、昔のようにお客さんにぎわう商店街にした



いという強い思いから、新しい街づくりに取り組み始めました。

まず、お客さんがたくさん集まるように歩行者天国の路上買い物「よ市」を始めました。毎週土曜日、百店近い出店がならび、にぎわうようになりました。

次に、商店街を利用するお客さんのために共同駐ちゆうしやじよう車場ちやまうを作りました。

さらに、お客さんが安心して買い物ができるように、安全な道路づくりに取り

組みました。ところが、歩道をつくるためには、土地が必要です。道路に面した商店に歩道の土地を寄付きふしてもらわなければなりません。

でも、自分の土地が減るのでから、なかなかうまくいきません。この考えに反対する人がいるのは当然です。一人でも反対する人がいたら、歩道をつくることはできません。何度も何度も話し合いました。『お客さんが安全で安心して買い物ができるように、歩道をつくりたい。』『自分の店の土地が減るのはこまる。』話し合うしかありませんでした。何度も何度も。

智子は、街作りの話し合いの様子を思いうかべま



した。とても大変そうです。話し合ったらすぐに実行にうつせるといふ簡単なことではないことが、分かってきました。

ここまで話して、岩淵さんはだまりこんでしまいました。

「伝統のあるこの街を、なんとかしたいというこの気持ちには、材木町のみんなが思

っていたことなんですよ。だから、もっとよい方法はないかと夜も集まり、話し合いを重ねました。やっこのことで街のみんなが寄付をしてくれることになりました。

した。こうして、この歩道と車がスピードを出すとができないようにするため、蛇行だこしている車道が完成したのですよ。見てください。にぎわっているこのよ市を。」

智子は、岩淵さんの顔を見つめ、むねが熱くなりました。そして、材木町をもう一度、見回しました。人が行き交い活気のあるよ市。店を出している人とお客さんの会話が楽しそうです。さつき畑からとってきたような土のついた新せんな野菜を売っているお店。木の枝えだで作ったリースを売っているお店もあります。これも、よ市をもう上げようとしている人たちの工夫や努力があつてのことでしょう。まだまだ

智子は、次の土曜日には、友達をさそつて材木町に来てみようと思いました。